

式 辞

平成29年度
卒業式

春の息吹が感じられる今日、多数のご来賓並びに保護者の皆様のご臨席を得まして、群馬育英学園、前橋育英高等学校第53回卒業授与式を盛大に挙げていきますことを、心より感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました557名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんの門出を心より祝福いたします。また、本日は何かとご多用の中、学園名誉理事 前群馬県議会議員 中村紀雄様をはじめ、多くの方々にご来臨の栄を賜りましたことに深甚より感謝申し上げます。

53期生の皆さんは、在学中本校の校風である文武両道を文字通り体現して、湯本俊明学年主任のもと、先生方と一体になって、大きな成果を挙げてくれました。

まず、『文』の面から紹介しますと、吹奏楽部の第23回西関東アンサンブルコンテスト銀賞、放送無線部の第14回県高校放送コンクール優秀賞、美術部の第41回県高校芸術祭美術展優秀賞、写真部の朝日フォトコンテスト入賞など多数の賞を頂きました。また秋の第25回育英祭も成功裏に実施出来ました。

『運動面』では、春の県総体では、競泳、バスケットボール、陸上競技、剣道が優勝し、夏のインターハイには、水泳、サッカー男女、陸上、テニス女子、柔道男女、バスケット、剣道、自転車競技が出場しました。なかでも水泳の1500m自由型に出場した高橋洸輝君が優勝、陸上競技も4種目で入賞を果たし、団体では、サッカー男子が3位、サッカー女子が5位入賞を果たしました。また硬式野球部は、春の選抜に続き夏の甲子園も出場しベスト16になることができました。

その文武にわたる活躍の中で私は、本校サッカー部の第96回全国高校サッカー選手権大会での全国制覇を取り上げたいと思います。この全国制覇は、私達に勇気と感動を与えてくれました。前橋育英の誇りを胸に全ての想いを背負い三度目のファイナルで掴んだ日本一。「やればできる」を証明してくれました。去年の決勝の0対5の敗退からスタートし自分たちに出来ることは、ただひたすらにボールを追いかけ続けることでした。何度失敗してもあきらめず立ち向かっていくことの大切さ、今回の優勝ではっきりしました。そこに「成長」と「進化」が生まれてくるんだということです。

先日行われた平昌オリンピックでも、日本は、大活躍でした。フィギュアスケートの羽生さん、ケガとの戦いに勝ち掴んだ2連覇、スピードスケートの高木姉妹の決してあきらめず、努力し続けた姿には、感動しました。皆さんが会見で言っていた言葉は、支えてくれた人、応援して下さった全ての人、そして一番身近な家族に感謝の言葉を心から話されていた姿は印象的でした。何かを達成するのは、もちろん自分自身の努力なのですが、そのまわりの環境が本当に大切なのです。感謝の気持ちがなければ達成できないのです。

卒業生の皆さんは、まだ学ばなければならないことが、沢山ありますし、必要な能力も身につけなければなりません。いろいろな人々との出会いを大切に、人格や思想を形成していくとともに広い視野で社会を眺めることのできる教養を身につけ、自分を問い直し、自分の潜在的可能性をさらに追求してみてください。私は本校で生活を共にし、皆さんには、磨けば光る素晴らしい個性や特性があることを確信していま

す。自ら求めて学ぶ中でそれを磨き上げ、輝かせて下さい。

人生で大事なことは、夢中になれることを見出し、それに対して、どれだけ真剣に打ち込めるか、ということではないかと思っております。どんな地味な生き方であってもいい、人は皆、仕事や研究などに、誠実に真摯に立ち向かった時、本物を手にすることができ、他を圧倒するほどの強い力を持つことができます。また真剣に求める者からは、必ず美しい輝きが放たれるものです。前橋育英生としてプライドと誇りを持ってこれからの人生歩んで下さい。

それでは、希望に満ちた出発の日に当たり、この学舎を巣立ってゆく皆さんの前途に幸多からんことを心から祈念して「式辞」といたします。

平成 30 年 3 月 1 日

学校法人群馬育英学園 前橋育英高等学校

校長 山田 耕介